

平成28年度 「飯田型キャリア教育」の取り組みのまとめ

飯田市教育委員会
生涯学習・スポーツ課

1 本年度のキャリア教育の取り組みの概要

飯田市では平成18年度からキャリア教育の取り組みを始め、本年度が11年目になる。当初は、中学校におけるキャリア教育の中核となる職場体験学習の推進に努めてきた。また、キャリア教育の実践研究では、平成21年度から小学校におけるキャリア教育の研究を始め、平成22年度からは丸山小・飯田西中において文部科学省の指定を受け、「ふるさと学習」を中核にした小中一貫のキャリア教育の研究に取り組み、「小中一貫キャリア教育年間指導計画」を作成することができた。

さて本年度であるが、キャリア教育研究委員会を中心に、職場体験学習の充実を目指して研究を深めるとともに、キャリア教育における小中学校と高校との連携のあり方についても、研究委員会に高校の先生方に参加してもらい検討してきた。

また、飯田市で進めている「小中連携・一貫教育」の取り組みにおいても、キャリア教育を一つの柱にする校区が多く出てきており、全小中学校でふるさと学習に取り組み、キャリア教育の指導計画も18小学校、9中学校で策定されており市内の各学校に広がってきている。本年度は中学校区ごとのまとまりで、小1～中9まで9年間を見通した指導計画の作成に取りかかっている。また、コミュニティースクールの立ち上げに伴い、ふるさと学習等地育力の活用がさらに充実するものと思われる。

今後は、飯田市で取り組んできた研究の成果を各小中学校で共有するとともに、さらには高校との連携についてもさらに充実させていきたい。また、各中学校の職場体験学習の日数の増加、また高校でのインターンシップの拡大に伴い、職場体験学習の受け入れ事業所の確保が課題となっている。企業や事業所等に向けての啓発活動も、さらに充実させていきたい。

2 本年度の推進体制について

(1) 飯田市キャリア教育推進協議会（年2回開催）

推進協議会は、産学官の連携により、小中学校のキャリア教育を支援するプラットフォームとして組織。

- ① キャリア教育の推進に関する基本的な方針
- ② キャリア教育の推進に関する評価及び検証

(2) 飯田市キャリア教育研究委員会（年5回開催）

研究委員会は、キャリア教育における指導方法の研究を目的にし、本年度は次のような課題について、研究を重ねてきた。

- ① キャリア教育における小中高の連携のあり方(研究委員会へ高校の担当者の参加)
- ② 高等学校におけるキャリア教育の取り組みについて
- ③ 職場体験実施に関わる課題について(職場体験の事前、事後学習のあり方)
- ④ 職場体験における学校と家庭、企業・事業所との連携のあり方

3 実施事業

(1) キャリア教育研修会

- ① 市内小中学校のキャリア教育担当者向けに研修会を行った。(6/27)
- ② 県教育委員会教学指導課の講義、ふるさと学習を基本としたキャリア教育の展開の確認、丸山小、飯田西中の小中一貫したキャリア教育モデル発表、グループワーク(①各校のキャリア教育に学ぶ ②小中一貫したキャリア教育の体系化に向けて)での話し合い。



③各中学校区でも、小中連携・一貫教育の中で、ふるさと学習やキャリア教育ついて、専門部会を設け、検討いただいた。

(2) 「結いジュニアリーダー」育成講座（年6回実施）

- ① キャリア学習を通して学んだことを多くの中学生に発信すること、また中学校間の「結い」を作ることを目的に、各中学校より1～2名ずつ参加（計12名）して講座を開催した。
- ② 7月に遠山郷で2日間にわたり、農業体験や遠山郷の人々との交流を行った。
- ③ 講座では、各自の職場体験をもとに「働くことの意味」「地域との関わり」についてみんなで考え、話し合ったり学習を行った。そして、その成果を1月のキャリア教育推進フォーラムで発表した。
- ④ フォーラムでは、司会、案内、会場設営など、運営の中心として活躍した。

(3) 「結いキャリアアップ」体験講座（年2回実施）

- ① 教師自身のキャリアアップ及び、各校での地域資源の見直しとふるさと学習の充実を図ることをねらいに、2回の体験講座を実施した。
- ② 7月には、中心市街地でのフィールドワーク・大平宿でのいり宿泊体験を実施し、15名の教師が参加。
12月には、木沢地区で霜月祭りの体験講座を実施し、7名の教師が参加した。
- ③ 参加した教師からは貴重な体験ができた大変好評であった。2回の講座の参加者数は、計22名。夏、冬とも学校の忙しい時期で参加しにくい状況となっている。



(4) キャリア教育推進フォーラム（1月28日）

- ① 本年度で11回目を迎える。飯田市公民館で実施。市内各中学校から中学生が多数参加し、300名以上の参加者となった。
- ② 「働くこと 地域に生きること」をテーマに、結いジュニアリーダーが活動発表。また、丸山小学校3年生が、「ふるさと飯田を絵に残そう」と題して、地域の魅力を学び愛着を育む総合的な学習で、カルバートボックスに壁画を描いた様子を紹介。飯田女子高等学校調理クラブの皆さんが、地域の皆さんと郷土料理を楽しんだり、地域行事に参加し調理と販売を通して地域の皆さんと交流したりした様子を、「地域の方と調理を楽しむ私達」と題して発表した。
- ③ わが家の結いタイム三行詩及びキャリア教育作文の入賞者と作品発表をおこなった。
- ④ 後半は、「自分らしい生き方の実現」と題して、ジュニアリーダーの中学生が司会をつとめるフリートークを実施し、中学生を中心に、大人の皆さんを含め多くの意見が交わされた。
- ⑤ 本年度は、会場を市公民館に変更した。中学生が多数参加でき好評であった。他校の生徒とこういう話し合いができたことは良かったとの発言もなされた。

(5) 職場体験学習のコーディネート

○ 各学校の職場体験学習等の実施状況は次のようであった。

学 校 名	職場体験日数	生徒数	受け入れ事業所数	講師派遣数	その他の体験日数	通算体験日数 (職場+福祉)
飯田東中学校	3日	87人	46		福祉体験3日(3年)	6日
飯田西中学校	5日	86人	52	1	職場体験3日(3年) 農業体験2日(1年) 地域体験半日(3年)	8日
緑ヶ丘中学校	3日	207人	85	1	福祉体験2日(3年)	5日

竜東中学校	3日	25人	20	1	農業体験2日(全校)	3日
竜峡中学校	3日	50人	38		福祉体験1日(3年) 農業体験2日(1年)	4日
旭ヶ丘中学校	3日	215人	93	2	福祉体験3日(3年) 林業体験1日(1年選 択)	6日
鼎中学校	3日	113人	59	1	福祉体験2日(3年)	5日
高陵中学校	4日	162人	62	1		4日
遠山中学校	3日	11人	11	1	学有林体験1日(全校)	3日
合計	平均 3.3日	956人	延べ数 466	延べ人 8人	福祉体験実施者 延べ人数829人	平均 4.8日
昨年度 実績	3.3日	1045人	488	6人	839人	4.8日

(6) 第7回「結いのまち飯田」キャリア教育作文コンクールの実施

- ① 「働くことへトライ」をテーマに、平成22年度から作文コンクールを実施している。その結果、全県から907点の応募があった。(飯田市内からは544点)
- ② 審査はキャリア教育研究委員会で行い、最優秀作品はキャリア教育推進フォーラムで発表した。働くことの厳しさや喜び、働くことの意義、将来の夢を綴った作品が多く、今後のキャリア教育の方向を考える上で大変有効であった。市内小中学校へは、作品集を配布済み。

4 本年度の取り組みについてのまとめ

(1) 「飯田型キャリア教育」について

- ① 地育力を活用した「ふるさと学習」を中核に据えた飯田型キャリア教育の取り組みは、キャリア教育の特色ある取り組みとして県内外で高く評価されてきている。ふるさと学習の中にはキャリア教育の内容が多く含まれている。指導計画に「つける力」を明記し、キャリア教育の視点を意識したふるさと学習の充実を図った。
- ② キャリア教育研修会において、丸山小学校と飯田西中学校における小中一貫教育の取り組みにおいて作成した年間指導計画をモデルに学び合い、中学校区単位で小中一貫したキャリア教育の年間指導計画作成に取り組み始めた学校も出てきている。
(6月27日 全小中学校のキャリア教育担当者を対象に研修会を実施)
- ③ 各学校において年間指導計画を作成していくにあたっては、新たに活動などを工夫するというのではなく、ふるさと学習を含め現在ある活動にキャリア教育の視点をあて、充実を図っていくという方向で進めていくことが大切である。例えば、当番活動、係活動、清掃なども、生活上の役割を果たす責任感や連帯感を育てることでキャリア教育の活動になっていく。
- ④ 飯田型キャリア教育で目指す方向の一つに「学習意欲の向上」「主体的な学びの構築」がある。「将来の夢や目標を持つこと」や、「社会にふれ自分のあり方を見つめる」ことで、今自分がすべきことを考え、学校で学ぶことの大切さを理解していくことにつなげたい。
- ⑤ 飯田型キャリア教育の一つの特徴は、「キャリア教育は学校、家庭、地域の連携プレーから」にもある。家庭におけるキャリア教育としては、「わが家の結いタイム」の推進を。地域におけるキャリア教育としては、地域の行事やボランティア活動への参加等を掲げている。コミュニティースクールの立ち上げを機に、家庭や地域における取り組みも、関係機関と連携して一層充実させていきたい。

(2) 職場体験学習について

- ① 職場体験学習については、本年度も多くの企業や事業所の協力を得て、大きな問題もなく円滑に実施できた。しかし、各学校の職場体験が7月、8月に集中することや、高校のインターンシップが増える中で、受入事業所の開拓も課題になってきている。関係機関と連携してキャリア教育の啓発に務めるとともに、企業や事業所への働きかけを行っていく必要がある。

る。特に製造業など物づくりの業種拡大に努めたい。

- ② 特別に支援が必要な生徒などについては、本人・保護者・学校・職場が事前に十分連絡を取り合い、個々に応じた体験がなされるように一層配慮したい。
- ③ 職場体験学習の事前学習、事後学習の重要さは各学校で認識されているが、総合的な学習の時間の減少に伴い、指導時間の確保が難しいという声も出ている。しかし、「将来へ向けての学習の意欲付け」や「進路決定に生かしていく」ためには、事後学習のさらなる充実が求められている。

(3) キャリア教育の啓発について

- ① 1月に実施した「キャリア教育推進フォーラム」では多くの参加者があり、内容についても充実したものだったとの評価を得ている。
また、「キャリア教育作文コンクール」では、市内14校、市外16校の応募があり、キャリア教育に対する関心も増してきている。今後もこうした事業を充実させ、多くの教職員や市民にキャリア教育に対する理解を得ていきたい。
- ② 飯田市公式ホームページのスペシャルサイト「地育力どっとネット」へ掲載、情報誌「地育力通信」の発行をしている。